



OKAYAMA UNIV.



文部科学省科学技術人材育成費補助金「テニュアトラック普及・定着事業」

NEWSLETTER

Vol.
12
2014.8

岡山大学ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室



Index

理事挨拶	1	WTT 卒業生の活躍	2
第Ⅴ期 WTT 教員 1 名着任	1	学会・学外活動記／授業の感想	3
第Ⅱ期 WTT 教員 3 名が テニュア教員へ	2	女性サポート相談室だより／お手軽簡単 Recipe／新室員紹介／ 平成26年度 おかやまサイエンス・トーク／編集後記	4

理事挨拶



岡山大学では、平成23年度～平成27年度の5ヶ年を行動計画期間とする「男女共同参画推進基本計画」を策定し、ダイバーシティ推進本部男女共同参画室が中心となって、ウーマン・テニュア・トラック（WTT）制度による女性教員の雇用拡大、女性研究者のサポート体制整備、意識啓発・広報活動などに取り組んできました。これまでの事業を通じて、女性教員の比率は徐々に高まってきていますが、平成26年5月1日現在で15.0%であり、「平成30年度には自然科学系女性教員の割合を20%とすることを旨とする」という当初の目標達成に向けて、今後一層の努力が必要です。また、政府が6月24日に閣議決定した成長戦略の中では「女性の活躍推進」を残された10の重要課題の1つとして掲げており、今後の大学改革においても、女性教員の雇用促進や管理職における女性登用が急務となっています。

男女共同参画社会の実現に向けては、女性参画の数値枠設定や支援のための基盤整備等のいわゆるポジティブ・アクションとともに、個人の意識改革が重要であることは言うまでもありません。岡山大学でも、教職員の一人一人が互いの尊厳を重んじる意識を醸成するとともに、男女が組織の対等なパートナーとして参画の機会を確保し、それぞれの能力を最大限に発揮できるように、制度や慣行のあり方を見直していきたいと思っています。

引き続き、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

平成26年8月吉日

企画・総務担当理事 阿部 宏史

第Ⅴ期WTT教員 1 名着任 (H26.4.1)



井上 麻夕里

〔所属〕 大学院自然科学研究科 地球科学専攻

〔最終学歴〕 東北大学大学院理学研究科 博士課程後期修了

〔前職〕 東京大学大気海洋研究所 助教

〔研究内容〕

近年、環境変動に関する問題が懸念されていますが、そもそも地球の環境は変化するものです。それがどのように変化してきたのか、主にサンゴ試料と地球化学的手法を用いて、過去の海水温などの環境変動について研究を行っています。

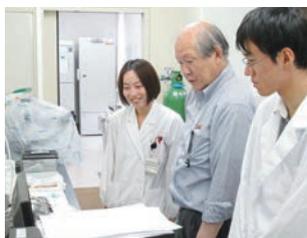
〔WTT 教員になったの抱負〕

地球というのはダイナミックでありながら繊細な面も持ち合わせていて、とても魅力的な存在です。今回WTT教員として地球科学科に着任できたことで、地球を研究することの面白さや大切さを、自分の研究を通して少しでも広く伝えていければと考えています。と同時に異分野の研究にも触れ、多角的な考察に努めると共に、学生の教育・指導にも前向きに取り組んでいきたいと思っています。これからどうぞよろしくお願い致します。

注：WTT（ウーマン・テニュア・トラック）制度とは、女性若手研究者が5年間、自立した研究者としての経験を積み、テニュア教員の採用基準に達していると評価された者を、テニュア教員として採用する人事システム

第Ⅱ期WTT教員3名がテニユア教員へ

WTT 期間を振り返って



飯尾 友愛

● 大学院保健学研究科
検査技術科学分野

WTT 教員の期間を終え、4月より常勤の教員として採用となりました。この3年間はとても早く、でも長い時間でした。講義については学生に戻った気分で教科書を学び直し、研究では成果を様々な場所で発表させていただく機会があり、プライベートでは出産と多くの経験を積むことができた濃い3年だったと感じています。研究、講義、実習、家庭と考えること、同時にやらなければならないことも多く、頭が重くなることもありました。しかしそのような時には、メンターの先生をはじめとする先生方、男女共同参画室の皆様、家族、周囲の先輩お母さん達からのアドバイス、サポート、話をきいてもらえることが本当に大きな支えとなりました。このような出会いに恵まれたことは、私にとって WTT 期間で一番の財産になったと思っています。今後は研究、教育にさらに励み、家庭との両立も目指していきたいと思っています。



前田 恵

● 大学院環境生命科学研究所 (農)
生物機能化学講座

岡山大学へ着任する直前の2011年3月に震災があり(この時私は成田上空におりました)、着任後しばらくは何か落ち着かない毎日だったように覚えています。その後、岡山大学がテニユアトラック定着普及事業へ採択され、実験できる環境を3年間で整えることが出来ました。またこの間に、ベルギーゲント大学への留学も経験しました。お世話になった Van Damme 教授が9月にオーガナイズされる学会には学生と共に参加する予定です。2011年のゼミ旅行では大山登山を経験しました。その当時の学生さん達はすっかり卒業し、今年は新しいメンバーと大山登山に向かいました。日頃の運動不足がたたったり、今回は植物の写真を撮る余裕も無いままに山頂を目指しました。ずっと霧だった中、途中で幸運にも晴れ間がのぞきました。私の WTT 期間も同じです。最初の一步からは想像できない未来が待っておりました。この先にはどんな未来が待っているのか…3年くらいして振り返ってみたいと思います。



宮崎 祐子

● 大学院環境生命科学研究所 (農)
環境生態学講座

3年間の WTT 期間を終え、4月よりテニユア教員として大学院環境生命科学研究所に新たに着任しました。とは言っても、WTT 教員として在籍していた研究室への着任となり、気持ちを引き締めて新たに再出発となりました。振り返ってみればこのシームレスな繋がりが非常に有り難く、身一つで岡山にやってきた状態を既存の研究室で受け入れて頂きつつ自分の研究に取り組める環境を与えて頂いたお陰で、WTT 着任当初からは考えられないほど研究環境が整い、新たな研究テーマへの関わりも持つことができました。様々な制度や研究費のお陰もありますが、所属研究室の先生方とスタッフの手厚いサポート、熱心な学生との出会い、研究科・男女共同参画室の先生方の暖かい励まし、WTT メンバーとの切磋琢磨のお陰であると人の繋がりに本当に感謝しています。これからも多くの人と関わりながら研究をこれまで以上に発展させ、また岡山大学のために少しでも貢献できるよう、精進して参ります。

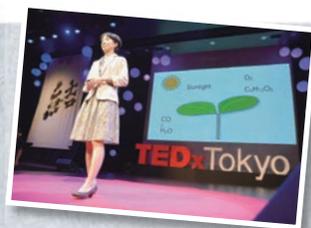
WTT 卒業生 の活躍

第Ⅰ期 WTT 教員 西村美保 助教 (自然科学研究科理学部生物学科) TEDx(テデックス)Tokyo2014に出演 (2014.5.31)

植物の光合成メカニズムについて解説しました。
「Let's have fun!」が合い言葉の会場は、国際色豊かでお祭りのにぎやかさと好奇心を刺激する空気が入り交じったとても熱い場所でした。登壇は大変緊張しましたが、皆さんが話に反応してくださり、講演者と聴衆の距離が近いことを実感しました。講演後も気さくに声をかけてくださるのでとても楽しかったです。

* TEDとは、Technology、Entertainment、Designの頭文字から取られており、1984年にアメリカで始まったイベントです。Technology、Entertainment、Designの各分野の第一人者がスピーカーとして登壇。独創的で多様なアイデアを世界に向けて発信します。

イベントの様子は動画でもご覧いただけます。<http://www.tedxtokyo.com/talk/miho-nishimura/>



【海外研究活動を通して】

第IV期 WTT 教員 増田 潤子

平成25年度4月より第IV期 WTT 教員として、大学院自然科学研究科に所属し、工学部ナノバイオシステム分子設計学研究室にて研究をしています。去年8月、私の留学先であったアメリカ国立衛生研究所に1年ぶりに滞在し、3週間共同研究を行ってきました。アメリカの財政難による研究費削減が著しいとのことでしたが、宿主防衛部門のPIであるWarren Strober先生は十分な研究環境を与えて下さり、有意義な研究をすることができました。また、今年4月には、アメリカ癌学会に参加するためサンディエゴに滞在しました。Robert A Weinberg博士をはじめ、世界的に有名ながんの研究者が数多く講演しており、大変勉強になりました。私が発表したポスターもたくさんの方に興味を持っていただきました。学会発表は私の研究の客観的な反応を今までとは違った形で受けたり、質問やアドバイスを受けたりできる貴重な機会です。これからも積極的に国際学会で発表し、研究に活かしていきたいと思います。

連載

学会・学外活動記

04
MINI COLUMN



国立衛生研究所の前で。



アメリカ癌学会会場のすぐ近くにベトコ・パークがありました。

【学会セッション・シンポジウムの開催】

第IV期 WTT 教員 齋藤 光代

昨年の秋から今年の春にかけて、いくつかの学会のセッションおよびシンポジウムのコンピナー、コーディネーターを務める機会がありました。昨年秋の日本水文科学学会においては、「水循環に関わる窒素循環—科学的未知に迫る—」というシンポジウムを企画・開催しました。このシンポジウムでは、山地源流域から沿岸域を含む多様なスケールでの水循環と窒素循環とのインタラクションに関する先鋭的な研究結果を紹介して頂くとともに、今後の課題や新たな方向性についての議論を行いました。また、今年春の日本地球惑星科学連合大会においては、「流域の水及び物質の輸送と循環—源流域から沿岸域まで—」というセッションを開催し、バラエティに富む幅広い研究テーマから計40件もの発表エントリーがあり、大変盛況となりました。

これまで、主に自分自身の研究発表という形で学会に参加してきましたが、企画・運営側として携われたことは、今後にとっての良い経験になりました。

連載

学会・学外活動記

05
MINI COLUMN



シンポジウムの趣旨説明



学会参加の高校生への研究説明

プロフェッショナルを目指すあなたへ 男女共同参画社会のキャリアデザイン

この講義では、男女共同参画とキャリア形成に関する基礎知識と、様々な分野の学内外講師から、職業生活や家庭生活に関わる話を聞くことにより、専門職のキャリアについて学べる内容になっています。



授業の感想



今までたくさんの講師の方からお話を聞きましたが、そろって「運命的に今の研究に巡りあった」「出会いが良かった」とおっしゃっています。自分の努力と同時に人との出会いや運命的な面も将来を決めていくのではないかと思います。

環境理工学部 2年生

ある選択がこれからの人生を大きく変えることになるかもしれないと思うと、とてもおもしろいと思いました。何気ない選択に見えても後になって振り返ると大きなターニングポイントになっているかもしれない。そう考えると、これからの出会いや選択を大切にしていきたいと思いました。

理学部 2年生



女性 サポート

相談室だより

第7回 Career Café

5月とは思えない程暑い日となった30日のお昼に第7回キャリアカフェを行いました。

この日は、子供の習いごとはどうしているのか、時短制度を使った場合はどうなのか、また他の保育園の様子、学童などのテーマで互いの情報交換をしました。参加者それぞれの部署には、同じ境遇の人が少ないようで、次々と出てくる活発な意見はとても参考になったようでした。そうした参加者の一人に、大きなお腹を抱えた産休を取られたばかりの方がいらっしゃいました。他の参加者はみなその頃の自分を懐かしみながら、これからママになる彼女の出産にエールを送りました。



相談はこちらへ

- メールアドレス : support-w@adm.okayama-u.ac.jp
- 電話番号 (代表) : 086-251-7011 (予約制)

新室員紹介

今村 維克 教授

大学院自然科学研究科 (工)



今年度から室員となりました今村維克と申します。岡山大学に着任して18年目になります。その間、環境も研究テーマも目まぐるしく移り変わり、全てあつという間の出来事のように感じます。現在、大学運営は大きく変わりつつあり、本学の男女共同参画においても、変化に対応できるよう、委員として微力ながらお役に立てばと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

本年度第1号(通算第12号)のニュースレターをお届けいたします。

本学のウーマン・テニエア・トラック制度は6年目に入り、これまでに総勢14名のWTT教員が採用されました。そのうち、昨年4名、今年新たに3名がテニエアを取得し、研究主催者へとキャリアアップされました。今まさに政府が掲げる成長戦略に「女性の活用」が大きな鍵となっているように、優秀な女性の人材確保と育成が大学にとっても急務の課題となっています。そうした中、7名の先生方がテニエアを取得されたことは、着実にその成果が現れてきたと感じております。今後も、女性研究者の支援とともに、男女を問わず働きやすい職場の創成に向けた男女共同参画の活動にご理解とご協力をお願い申し上げます。

Recipe

お手軽 簡単

第1回
キュウリのため



10分でできる簡単レシピを紹介します。
大きく育ったキュウリやお漬物用のお買い得キュウリがあったら是非お試しください。おつまみにも最高ですよ!

【材料】キュウリ3~5本

いりこ(4~5センチ小魚)ひとつかみ
オリーブオイル(なければサラダ油でもOK)
唐辛子少々

A: 砂糖 小さじ2、みりん 大1、酒 大1、醤油 大1

- ① キュウリを洗って乱切りにする。
 - ② フライパンにオリーブオイルを入れ温めたら、頭とはらわたを取ったいりこを入れてコンガリするまで炒める。
 - ③ 乱切りにしたキュウリを入れ、しんなりするまで炒める。
 - ④ Aを入れ、さらに炒める。仕上げに唐辛子を入れて出来上がり。
- * 冷蔵庫で冷やしても美味しいですよ。いりこも食べてね!



キュウリには、夏バテ解消・食欲増進の効果があります!!

2014 [平成26年度] おかやまサイエンス・トーク

サイエンス・トークは、高校生、特に女子高校生に理系分野の勉強や進学に関心を持ってもらうことを目的に5年前から実施しています。本年度は、県内外10校で開催し、ウーマン・テニエア・トラック(WTT)教員と大学院生各1人による研究内容紹介と中高生からの質問タイムからなっています。



開催校(7月~9月開催予定)

岡山県作陽高等学校・福山暁の星女子高等学校・岡山県立矢掛高等学校・清心女子高等学校・清心中学校・岡山龍谷高等学校・岡山県立総社高等学校・岡山県立倉敷中央高等学校・福山暁の星女子中学校

お問い合わせ

国立大学法人 岡山大学
ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室

〒700-8530
岡山県岡山市北区津島中一丁目1番1号
TEL: 086-251-7011 FAX: 086-251-7033
Email: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp
http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/danjo

